稽古場にて

岸田國士

青空文庫

文学座三月公演はゴーリキイの「どん底」ときまり、私が演出を引受けた。

神西清氏の翻訳ができあがるのを待って、稽古にはいる。毎日小田原から出て来るのは、病後の私には大儀だから、稽古場の隣に宿をとってもらう。

配役には思い切って新人を起用したので、どんな結果になるか、半分楽しみで、半分心配なのは致し方がない。

この「芝居」は既に日本でも、度々上演されている。古い所は別として、築地小劇場以来、二、三の演出家が、それぞれの流儀で、一応「どん底」の日本版を作ってみせた。私も、そのうちの一つを見ているが、なんとしても、三十年前に、パリで観たモスクワ芸術座の「どん底」が眼の前にちらついて離れない。

この完璧といっていいロシア近代劇の舞台は、私の今度の仕事の目標に違いない。

私ばかりが、そう独りぎめにきめていても、俳優の一人一人がみんなその気になってくれなければ困ると思い、幸い好い伝手があったので、「モスクワ芸術座の名優たち」という記録映画を座員一同打揃って見学した。誰も彼も感嘆の叫びをあげた。言葉はわからぬながら、カチャロフの男爵をはじめ、名優たちの名演技は、まことに神品の名にそむかぬものであった。事の序に、フランスで作った映画の「どん底」も古いフィルムを借りて来て観た。この方はジュヴェが男爵に扮し、ギャヴァンがペーペルの役で出ているが、誠につまらぬ映画のようにおも

われた。

稽古場に帰って、皆で感想を語り合ったが、私が座員諸君の注意を促したのは、モスクワ芸術座の「どん底」が、想像以上に明るい印象を与えた、ということであった。それはなんのためか？　いろいろ原因はあるが、第一に、こういう生活のなかにもあるロシア民衆の底抜けの楽天性である。しかし、この民族的特質は、やはり、ロシアの俳優でなければ、十分に出せないものではあろうけれど、われわれもそのことを頭において、それぞれの人物のイメージを描かなければならぬこと、演出上の配慮もまた、この一点を忘れては大事なものを失う結果になること、であった。だいたいに、日本人のわれわれは、生活の不幸な面、例えば、貧しさとか、病いとか、怒りとか、争いとか、特に死というような場面を舞台の上に描き出す時、必要以上に感情的な表現をする傾向がある。これは一種のセンチメンタリズムである。感傷の過度は常にヒステリカルな表情になる。これが、舞台を知らず知らず「妙な暗さ」で包むことになる。つまり、「暗い現実」というものはあるに違いないけれども、これを語るのには、「暗い語り方」しかないわけではない。

ゴーリキイは、この戯曲「どん底」において、いわば社会の「暗黒面」を描いてみせるのであるが、作者自身、こういう人々と共に、生き、悲しみ、歌い、絶望し、憤り、そして、なおかつ、明日の光明を待ち望んでいることが、はっきり感じられる。

少くとも、作者は、自分たちの不幸と苦難とを語るために、徒らに興奮はしていない。むし

ろ、「面白い話」をして聞かせ、相手を楽しませることによって、自分も笑い興じたい、かの「話好き」の本性の如きものをむき出しにしている。

最後に、私がこの演出を引受けた最も大きな理由は、神西清氏の新訳が間に合いそうだということであった。間に合うには間に合ったが、テキストレジーに十分暇をかけることが出来ず、作者にも訳者にも申訳ないような杜撰なレジーしかできなかった。完全な訳を是非白水社版世界戯曲選集について参照されたい。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集28」岩波書店
　1992（平成4）年6月17日発行
底本の親本：「文学座第五十七回公演・どん底　パンフレット」
　1954（昭和29）年3月5日発行
初出：「文学座第五十七回公演・どん底　パンフレット」
　1954（昭和29）年3月5日発行
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2011年2月19日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

稽古場にて

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/